

既に沼澤あり河流ありて、植物を生育する鹹土帶を過ぐれば、遠からずして耕地を有する住民地へ到達すべし、此の住民地を名けて沙島と曰ふ。

四 沙島あり以て旅行すべし

戈壁之れを瀚海と稱するより推せば、住民地に沙島の名を命ずるの適當なるを覺ゆ。一望際なき大沙漠に沙丘の亂立するは、恰も洋中に巨浪の起伏するが如く、其の間紅柳疎々として阜上に聳ち、蘆葦莽々として水邊に茂生し、耕地には五穀の實る有り、牧場には牲口の遊ぶ有り、泥土を塗れる民家散在して、宛然沙海中の島嶼を成すもの、即ち沙島なりとす。若し夫れ沙漠を旅行する者、數日間、寂寞荒涼、滿目砂に非ざれば礫、一樣の風物に飽きたるの際、會鬱蒼たる沙島を發見したる時は、海洋を航し來りて港灣を認めたる快感欣喜と何ぞ擇ぶ所あらんや。

此の如き快感を以て迎へたる沙島の實狀は果して如何。到り見れば、多くは丁零凋落の寒部落に過ぎずして、曾て宿舍の旅情を慰むべきもの無く、又美味の口腹に適するもの有らず。否糧秣と雖も之れを購買することすら能はざる處多く、塵に飢渴を凌ぎ休養を取り、以て一夜の客夢を結び得るに過ぎざるなり。然るに滿

瀚海中の
沙島

沙島の實
況